

平成29年度 出雲医療看護専門学校

学校関係者評価委員会 議事録

日 時：平成30年8月4日(土) 13:00~14:40

場 所：出雲医療看護専門学校 101 教室

学校関係者評価委員：

- 高瀬政夫（今市コミュニティセンター長） 荒木繭（卒業生：看護学科1期生）
秦美恵子（島根県看護協会 会長） 福田勇司（島根県臨床工学技士会 会長）
廣江正幸（山陰言語聴覚士協会 理事）
水谷厚志（出雲北陵高等学校 校長） 太田真英（島根県理学療法士会 会長）

学校関係者：

- 橋本学校長 笠原次長 今岡副学校長 松井教務部長
片寄教育顧問 阿守課長

出席者：計11名 欠席者

書記：阿守

議題	内 容	発議者
1、開会	開会宣言	笠原次長
2、学校長挨拶		橋本学校長
3、学校関係者評価委員会の説明	説明： 委員会の主旨・目的について	笠原次長
4、自己紹介	自己紹介：出席委員より	全員
5、委員長選出	委員長：高瀬様(今市コミュニティーセンターセンター長) 委員長の快諾をいただく。 委員長より挨拶 「外部から内部は見えにくい。自身は専門外の為、内部評価を専門の方々から多くの意見をお願いしたい。」	笠原次長 高瀬委員長
6、議事 学校教育方針について	説明 ・学校関係者評価の考え方及び目的について ・教育方針について ・教育理念・3P・7つの視点・5つの数字の考え方について	橋本学校長

<p>自己点検評価結果より意見交換</p> <p>大項目Ⅰ・Ⅱについて</p>	<p>【大項目Ⅰ（教育理念・目的育成人材像）Ⅱ（学校運営）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Ⅰ・Ⅱの自己評価評価について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・学園としての「ミッション」「ビジョン」、「教育理念」に基づいて学校を運営している。 ・3つのポリシーの策定をしている。7つの視点と5つの数字を目標に運営をしている。 ・入学者確保・退学者の減少・国家試験合格率を高く維持することを目指す必要がある。 ●Ⅰ・Ⅱの評価に対しての意見 <ul style="list-style-type: none"> ・評価が低すぎるのではないか？ ・小数点の数字はなぜあるのか？ <p>⇒教職員全体をグループに分け評価し、平均値を算出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組織」「人事・給与」の評価が低い。外部から見る限り出来ていると感じる反面、内部の評価が低く出るのはなぜか？違和感とギャップを感じる。 <p>⇒実際には組織は整っているが、個人が評価するとき組織に対する貢献度で自分を評価してしまい点数が下がっている。また、人事給与についても就業規則があり整っているものの仕組みの理解が出来ていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が低いことは成長の現われにもみれるが、一般の相場からみてこの学校はどうかとドライな評価になる。参考に、幼稚園でも同様の評価委員をしているが、評価はほぼ「4」になり、ところどころ「3」になる。甘いという見方もできるが、一生懸命努力しているとも受取れる。 ・教育理念は素晴らしい。しかし逆に点数が低いのは土台ができていないのではないかとみれる。特に人事・給与面の評価が低いとモチベーションが上がらない。これには情報共有できていないのではないか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【結果】</p> <p>学校関係者評価として評点を以下のとおりに変更する。</p> <p>大項目Ⅱ 2-4-7 の評価 1.0 ⇒ 2.0</p> <p style="padding-left: 40px;">2-5-9 の評価 1.0 ⇒ 2.0</p> <p>理由：</p> <p style="padding-left: 20px;">成果だけを重んじていて、プロセスが評価されていないため低い自己評価となっている。</p> </div>	<p>笠原次長</p> <p>秦会長</p> <p>高瀬委員長 笠原次長</p> <p>福田会長</p> <p>笠原次長</p> <p>高瀬委員長</p> <p>廣江理事</p> <p>高瀬委員長</p>
---	--	--

大項目Ⅲ～Ⅵ

<p>【大項目Ⅲ（教育活動）Ⅳ（学修成果）Ⅴ（学生支援）Ⅵ（教育環境）】</p> <p>●Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの評価について説明</p> <ul style="list-style-type: none">・教育の質の向上に対して、教員のレベル向上が必要である。現在、大学院への進学・職能団体の役員になるなどそれぞれのスキルアップを目指している。・大項目Ⅲ 3-9-16の点数が低いのは職員の共通認識ができていない。今年度よりキャリアデザインという科目を作り実施し一貫した教育を目標としている。・学生の満足度の向上にアクティブラーニングを積極的に使用している。・平成29年度の国家試験合格率は、看護・言語学科は2年連続全国平均以上だが、理学・臨工は課題が残った。・就職については第1希望職種100%内定している。・退学率4%未満を目標としているが、平成29年度6.1%であった。退学理由には、学力面、心身的理由、意欲、経済理由がある。・留学生の実績はない。大阪滋慶学園としては受け入れ体制があるが、意見が分かれた結果となった。・学生寮の設置がない。近隣の賃貸物件所有者と直接交渉し、優先的に受け入れていただくシステムを構築中である。・教育課程改正を控えている学科がある。順次進めている。・法令による火災訓練は毎年実施しているが、自然災害・原発の問題に対する広域の対応が必要と考えている。	<p>松井部長</p>
<p>●Ⅲ～Ⅵ評価に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・大阪滋慶学園では留学生の受け入れはあると説明があったが、実際に受け入れはできるのか？ <p>⇒受け入れ体制はあるが相談体制の整備が必要である。</p> <p>評価が低いのは法人と出雲との違いに認識の違いがある</p> <p>⇒体制はできていると思うので、点数は上げたほうが良いのではないか。</p> <p>⇒今後は、本校としての留学生の受け入れの体制・準備が必要と考える。</p>	<p>荒木氏</p> <p>笠原次長</p> <p>高瀬委員長</p>
<ul style="list-style-type: none">・評価項目は全国共通なのか？ <p>⇒全国専修学校のガイドラインに沿っている。</p>	<p>福田会長</p> <p>笠原次長</p>
<ul style="list-style-type: none">・生活環境体制にある学生寮について、近隣の協力を得られているのであれば改善と考えられるのではないか <p>中項目の具体性が分かりにくいと感じる。</p> <p>⇒全体としてイメージで評価しているように思う。</p> <p>基準が明確でないと感じる。</p>	<p>福田会長</p> <p>高瀬委員長</p>
<ul style="list-style-type: none">・卒業生の立場から、卒業生間での社会的評価を聞いたことがあるか？ 荒木氏へ質問 <p>⇒実習当時の指導者と一緒に働いているが特に聞いたことはない。</p>	<p>秦会長</p> <p>高瀬委員長</p>
<p>ただ、実習における物品や図書、備品等が少し足りていなかった。</p> <p>⇒当時、学生の要望を聞いてもらう術はあったのか？</p>	<p>荒木氏</p> <p>高瀬委員長</p>

	<p>⇒直接交渉に各々が行く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【結論】学校関係者評価としのて評点を以下のとおりとする。</p> <p>大項目V 5-5-18 の評価 1.5⇒3.0</p> <p>理由:母体にノウハウがあれば問題ないので、ほぼできていると評価してよい。</p> </div>	<p>荒木氏</p> <p>高瀬委員長</p>
<p>大項目VII～X</p>	<p>【大項目VII (学生の募集と受入) VIII (財務) IX (法令等の遵守) X (社会貢献・地域貢献)】</p> <p>●VII～Xの自己評価について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集についてはガイダンスや高校訪問を実施している。 ・学校、職種の認知が低い為、啓発活動が必要である。 先日、職能団体と一緒に地域の方々にイベントを実施した。 ・財務基盤を安定する為には学生募集が安定しなければならない。定員を満たすように動いている。 ・9-34-60、61 はこれまで実施していない為評価がついていない。 ・出雲市と平成29年度から地域包括連携を締結し、地域のイベント等に積極的に参加している。まだ不足している部分もある。 ・国際交流については、海外研修には行っているが、受け入れ側としては今後積極的にしなければならない。 <p>●VII～Xの評価に対しての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護において入学数が多少変動があるものの、地域別にみると現状として人手が西部地域は不足しており厳しい状況である。 西部地域の出身者が最終どうなっているのか？ ・学生確保は財務に直接繋がる。財務安定のための取り組みをしていく必要があるのではないか。 ⇒実施している。週ごとの集計や統計からツール物を変えて行っている。 ・認知あげることによって入学者を増やそうと考えているのか？ ⇒高校3年生だけを対象として考えるのではなく、高校1年生2年生、さらには小学生から職業認知を広めていかなければならないと考える。 ・臨工は養成施設は山陰で本校だけである。選ばれる為には合格率等実績を維持していかなければならないと感じる。結果を真摯に受け入れていかなければならない。外から見られるには数字が見られる。出雲ならでの魅力と実績が大切ではないか。 ⇒是非実行したい。 	<p>笠原次長</p> <p>秦会長</p> <p>廣江理事 笠原次長</p> <p>廣江理事 笠原次長</p> <p>福田会長</p> <p>笠原次長</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・就職については、希望に沿った形になっているのか？ ⇒看護はほぼ希望どおりだが、その他の学科についてはまだまだ求人が少ない状況の為県外に出ている。 職能団体と協力しながらなんとかしたい。 ・地元就職先を増やしたいがアプローチ出来ていないのが課題でもあり協力していきたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【結果】 大項目Ⅶ～Ⅹは自己評価結果のまま</p> </div>	<p>廣江理事 笠原次長</p> <p>廣江理事</p>
閉会	閉会のあいさつ	高瀬委員長

次回：12月予定 *後日ご案内